

工藤一郎国際特許事務所

<http://www.kudopatent.com/>

弊事務所で独自に開発したYKS手法により
特許の稼ぐ力を指数化

従来手法と比較したYKS評価手法の優位性

- * 特許群の経済的価値評価をはじめて実現
- * データの性質上、マイクロ評価に近い正確性
- * 客観データのみから構成され、恣意性を完全に排除
- * 出願データの積み重ねからなる高解像度情報
- * 原則的には低コストで多数の特許を群評価可能

知的財産マネジメントの客観的評価
優秀発明者ランキングも作成可能

企業特許力指数 総合ランキング

順位	企業名	[9月]YK値	順位	企業名	[9月]YK値
1	松下電器産業(株)	28460.37	11	日本電気(株)	9147.18
2	新日本製鉄(株)	22886.36	12	ヤマハ(株)	8877.05
3	キヤノン(株)	19470.23	13	シャープ(株)	8547.29
4	東芝(株)	13983.08	14	旭化成(株)	7603.60
5	日立製作所(株)	11899.03	15	神戸製鋼所(株)	7539.79
6	富士写真フイルム(株)	11837.76	16	産業技術総合研究所(政)	7466.93
7	三菱電機(株)	11826.28	17	住友金属工業(株)	7053.42
8	花王(株)	11134.15	18	三菱化学(株)	6794.32
9	東レ(株)	10572.32	19	富士通(株)	6471.89
10	三洋電機(株)	9677.86	20	松下電工(株)	6000.94

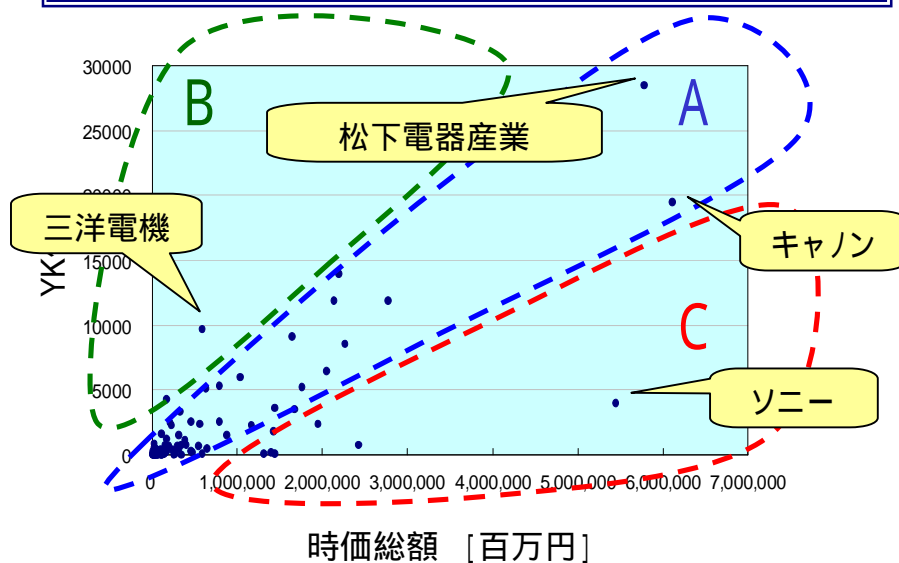
来年1月からホームページ上にて公開予定

企業特許力指数 業種別ランキング【電気機器】

順位	企業名	[9月]YK値	順位	企業名	[9月]YK値
1	松下電器産業	28460.37	11	コニカミルタホールディングス	5296.37
2	キヤノン	19470.23	12	村田製作所	5260.26
3	東芝	13983.08	13	セイコーエプソン	5148.86
4	日立製作所	11899.03	14	東芝テック	4315.25
5	三菱電機	11826.28	15	ソニー	4001.32
6	三洋電機	9677.86	16	東京エレクトロン	3625.96
7	NEC	9147.18	17	リコー	3483.47
8	シャープ	8547.29	18	パイオニア	3336.86
9	富士通	6471.89	19	オムロン	2558.79
10	松下電工	6000.94	20	富士電機ホールディングス	2526.05

来年1月からホームページ上にて公開予定

YK値 vs 時価総額【電気機器】



左図は縦軸にYK値、横軸に時価総額をとったグラフです。

A領域に属する企業は、YK値と時価総額が概ね比例関係にある領域であり、特許力と市場における評価がバランスしていると判断することができます。

B領域に属する企業は、時価総額に比してYK値が高く、特許力はあるが、市場から低く評価されていると判断することができます。自社の特許力を経営に生かしていきれていない可能性が高く、一方、第三者から見た場合には、特許力に比して‘御買い得’な企業であると判断することもできます。

C領域に属する企業は、時価総額に比してYK値が低く、特許力が低い割には市場から高く評価されているものと判断することができます。このため、限られた特許力を最大限生かして市場の評価を獲得することに成功した企業であるか、特許力以外の部分にて市場が高く評価している企業であると判断することができます。しかし、現実的な特許力と時価総額との乖離があるため、企業の信用力の低下とともに急速に市場の評価を失うかもしれないという危うさも併せ持っていると言えます。

株式投資をする企業の判断材料
の1つとして利用可能

ハイリスク特許検索 ～ 事業障害となる特許を検知する～

右図は、A～E社の各企業がある事業分野において保有するYK値が、いつ獲得されたものであるかを年度ごとに表した図です。

この図から各企業の特許力の推移を見ることができます。例えば、A社を見ると10年前は大きなYK値の獲得はありませんが、近年、その値が伸びてきており、この事業分野においてこれから期待のできる企業であることがわかります。

B社は10年にわたり、毎年少ないながらも確実にYK値を獲得していることや、D社が1999年に大きなYK値を獲得していることも一目瞭然です。

さらに、各年のYK値は各企業の保有する特許が獲得したYK値の積み重ねによるものです。よって、YK値の高い特許をピックアップすることにより、事業障害をもたらす可能性の高い特許を見つけ出すことも可能です。

新規事業に参入するときなどは、その事業分野にどのような有力特許が存在するかや、現時点で障害になりそうな特許を知ることで特許戦略を立てることができます。

各企業が 各年に獲得した YK値

